

1 研究主題

(1) 研究主題

「言語を介して能動的に関わる力の育成」

(2) キーワード

「訊き合う活動」「振り返り活動」

(3) 研究主題設定の意図

平成 29 年度県学習状況調査の質問紙では、話し合いにより自分の考えを深めたり広げたりできているという回答が香川県の平均を下回っていた。話し合い活動で、自分の考えを持っていてもグループに伝えない生徒、ただ一方的に自分の意見を述べるだけの生徒、意見を聞いても無反応な生徒が多く見られた。

交流活動などで、自ら関わる力を持ち、意味のある話し合い活動を行える生徒の育成を掲げた。

2 研究の具体

(1) 具体的な内容

授業改善の際に、「訊き合う活動」「振り返り活動」を具体として掲げ、教科横断的に取り組んだ。

- 「訊き合う活動」として、双方向の交流活動となるため「確認、質問」を繰り返すことで、考えを深めたり広げたりすることをねらう。
- 「振り返り活動」として、学びの過程を振り返ることで、理解を深め、新たな気づきや発見をすることをねらう。

(2) 具体的な取り組み

① 教員研修

8 月に、香川大学岡田涼先生を招き、アクティブラーニングや「訊き合う活動」「振り返り活動」の効果についてご講演いただいた。また、先生方が実際の取り組みを振り返り、効果があったものを交流し合うワークショップも行った。

② 校内公開授業週間の活用(第 1 回…9 月、第 2 回…10～11 月)

岡田先生による「訊き合う活動」「振り返り活動」の観点を元に授業参観を行い、討議では「良かった点」「アイデア」を交流することで、授業改善につなげた。

3 研究の検証及び改善の手立て

(1) 研究の検証

- 生徒対象の「授業改善のためのアンケート」(6 月と 11 月に実施、()内数字は「はい」の割合)
 - ・ 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思いますか。(37%→45%)
 - ・ 自分で考えた内容を振り返ることで、新しい気づきや発見がありますか。(34%→40%)
- 以上の結果より、教科横断的に「訊き合う活動」「振り返り活動」を行うことで、考えの深化・拡充が図られたといえる。

(2) 改善の手立て

今後の展望として、次のようなことに次年度取り組んでいきたい。

- 教科の特性を生かし、教科内での「訊き合う活動」「振り返り活動」の取り組みの統一を図る。